光る知性　豊かな心　強い意志

南中生

長井市立長井南中学校
令和 7年 10月 21日
校長　柿　崎　　円



平和へのメッセージ

～長井市戦没者追悼式～

１０月１８日（土）長井市戦没者追悼式が長井市民文化会館で行われ、本校生徒が平和への思いを堂々と発表しました。

「平和を紡ぐ言葉」　　長井市立長井南中学校　　さん

最近のテレビのニュースでは、国同士で命を奪い合う戦争のニュースが絶えません。そのニュースを私はどこか他人事のようにとらえていました。しかし、国語の授業で学んだ一つの詩が私の考えを大きく変えました。その詩とは石垣りんさんの挨拶―原爆の写真によせて―という詩です。その詩のある言葉が私の頭から離れませんでした。「1945年の朝　一瞬にして死んだ二十五万人のすべて　いま在る　あなたの如く　私の如く　やすらかに　美しく　油断していた」この一節を読んだときに、はっと気づかされたことがあります。今、日本には当たり前のように「平和」があります。この平和は、これまで日本を支えてくださった方々のたゆまぬ努力があったからこそなのだと。そして、これからは私たちがその責任を背負っていく必要があるのだと強く実感しました。

このことに気づいてから、以前なんとなく見ていたとあるアニメの登場人物の言葉が私の中で色濃く浮かび上がりました。「大事なものはなくして初めて気づくこと。そして、それは簡単になくなってしまうこと」この言葉から「平和」であることに甘んじてそれを守るための努力を怠ってしまうことは非常に危険なことであると、これからを生きる私たちは強く胸に刻む必要があると思います。今年で戦後八十年になります。「被爆者なき時代がやってくる」と言われているように、これからも平和を守っていくために、戦争の悲惨さ、残酷さを私たち自身が正しい知識を得ることが必要になります。そして、他国の文化や個性を認め合いながら対話を重ねることが重要なのではないでしょうか。

私たちにできることは、戦争という悲劇を、後世に語り継ぎ、未来永劫忘れないことだと思います。それがいずれ世界に広まれば、対話と理解によって築かれた真の平和を手に入れたと言えるのではないでしょうか。私は二つの作品と言葉に出会い、平和である毎日に感謝できることをとても幸福に思います。われわれ人類には「言葉」という宝物があります。言葉は大きな力を持っています。たとえそれが海外の人だとしても思いは伝えることができます。私たちの命には限りがあるからこそ、私は毎日を大切に生き続けたいです。そしていつの日か、皆の言葉で築き上げる平和な日々が来ることを心から望みます。

Karibuni（ようこそ）南中へ！

タンザニアマラソン選手団　来校





タンザニア連合共和国

■正式　United Republic of Tanzania
■首都　ドドマ
■言語　スワヒリ語（国語）　英語（公用語）
■面積　94 万 5 千平方 km（日本の約 2.5 倍）
■地域　アフリカ
■人口　6,550万人（2022年：世銀）
■通貨　タンザニア・シリング



■国旗の意味

1964 年、タンガニーカとザンジバルの国旗を組み合わせて現在の国旗が制定された。黒はタンザニアの人々を、緑は大地を、青は海を、黄色（金色）は鉱物資源を表している。



■長井市とタンザニア連合共和国のつながり

長井市は 2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、平成28年12月タンザニア連合共和国を相手国とするホストタウンとして登録。市民訪問団の派遣など相互交流を実施してきた。

平成30年に JICA タンザニア事務所の広報大使を務めるジュマ・イカンガ―さん率いるマラソンチームが長井マラソン参加に合わせ長井市での事前合宿を初めて実施。それ以降、継続してタンザニア選手の来市によるスポーツ交流を実施している。

長井マラソンに出場したタンザニアマラソン選手団が来校し、３年生と交流の時間をもちました。協議会メンバーが交流内容を考えてくれたのですが、Welcome ボードでの出迎え、英語によるスピーチ、スライドを使っての学校紹介、運動会の組で応援披露、学年合唱発表…と盛りだくさん！選手のみなさんに喜んでもらおうとする気持ちに溢れていました。ジュマ・ラマダン・イカンガ―さん（1984、1986年東京国際マラソン優勝、1984年ロス五輪6位、1988年ソウル五輪7位）から、「スポーツと教育が結びついている姿を見せてもらいました。」と感謝の言葉をいただきました。

最後は学年全員でアーチを作り選手退場。国境を越え、笑顔が言葉を超えた、素晴らしい時間となりました。

